

科目名 Subject	産官学連携講座 Lecture of Industry-Government-Academia Collaboration			教員名	新井 卓二	
開講年次	2	開講時期	通年	単位	1単位	
必修／選択	選択	授業形態	演習	時間	30時間	
実践的教育	○					
主な学習効果	知識・技能	主体的行動力	課題解決能力	多様な価値観や考え方を理解し、受け入れる能力	日本の伝統と文化を理解し、美意識を備えて行動できる能力	美しく生きる力を実践できる能力
		○	◎	○		
科目の概要	本授業では、ビューティービジネスに関わる産業界（民間企業）、官公庁（国・地方自治体）、学校（教育・研究機関）が、一緒に課題解決に取り組みます。よって授業の回によっては、様々な知見を得るためにゲストスピーカーの方をお呼びします。 そこで、前半は、産業界の民間企業と一緒に、新商品開発について考えます。企業は、時代に合わせ商品開発を行っていますが多くが失敗しています。そこで20歳前後の学生達と一緒に、企業と意見を交え自分たちに合う商品開発をします。さらに、F1層に対しリーチ（届ける）できるマーケティング手法も学び開発します。学生はプロセスを知り、将来の社会人になった際に経験が活かせるよう学びます。 後半は、官公庁の経済産業省等と一緒に、政策等の社会普及や取り組み手法を体験します。官公庁の施策の多くは学生の目や耳には届いていません。正しい情報を、影響力を持ちどのように伝えていくかも学びます。 これらは、ディプロマポリシー3のデータや様々な思考法を用いて課題を分析し、社会状況を勘案した解決策を想定できるに該当します。					
授業方法	対面授業とします。ただし、ゲストのルールまた社会的自粛要請により、対面授業が困難な場合はZOOMで対応致します。					
授業の目標	学生が、ビューティービジネスに関わる商品開発やマーケティングができること。 またヘルスリテラシーや市民リテラシーの向上を目標に、ビューティーや健康に関し正しい情報を取得し、評価し、広めることができること。 これらは、ディプロマポリシー4の自分のアイデンティティを認識し、自分とは異なる価値観や考え方を持つ人々の社会的・文化的背景を理解・尊重し、企業や官公庁の人々と協働できること。					
時間外学習 （予習・復習）	ビューティービジネスに関わるゲスト企業や官公庁をお迎えするので、予習として、企業や官公庁を調べてください。また復習として、学んだ手法や政策を毎回自宅で復習して下さい、（90分）具体的には、知識を習得しているかの確認の為の小テストを数回授業内で実施します。また1年次必修で学んだ手法を活かし、ビューティービジネスについて考え、実践してもらいます。					
教科書・教材	教科書	ヘルスケア・イノベーション（玄場公規・新井卓二・小野恭義、同友館、2020年）				
	教材	プリントを適宜配布				
	使用設備・備品	CD、DVD、ビデオ再生				
	参考文献	必要に応じて提示します。				
評価方法	授業参加意欲30%、発表20%、筆記試験50%の比率で評価します。 授業内容の性質上、特に授業態度と発言は重視します。					
	なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。					
学生へのフィードバックの方法	定期試験の要点について、掲示にて解説を行います。					
履修上の注意	私語、居眠り、飲食、携帯電話の使用、授業の妨げ、マナーに反する行為は退出を命ずることがあります。質問や意見をどんどん出して授業に積極的に参加すること。状況によりゲスト企業の変更もあります。					
本科目履修と関連する資格	資格名	なし				

授業計画			
	授業内容	到達目標	時間外学習・備考
第1回	オリエンテーション 産官学連携の概要を学ぶ	授業の全体像を理解し、産官学連携の重要性が分かることで、15回の授業の展開を予測することができる。	予習として、産官学の取り組みを調べてくる。(60分)
第2回	企業との商品開発全般を学ぶ	企業の商品開発担当者と共同で、今までの商品開発の歴史と取り組み手法を学び、比較することができる。	予習として、企業について調べてくる。(30分) 授業で習ったポイントを復習しノートに纏める。(30分)
第3回	企業との商品開発を発想する手法を学ぶ(ゲストスピーカー／格蘭グルメ)	企業において使用している開発手法を学び、商品開発担当者と共同で、アイデアを創出することができる。	予習として、ゲスト企業の商品について理由を調べてくる。(30分) 授業で習ったポイントを復習しノートに纏める。(30分)
第4回	商品開発における企業との協業を学ぶ①(リサーチ)	企業において商品開発に必要な調査により、課題を抽出し、リサーチ手法を、他者に伝えることができる。	予習として、親や友達から商品の感想を聞いてくる。(30分) 授業で習ったポイントを復習しノートに纏める。(30分)
第5回	商品開発における企業との協業を学ぶ②(マーケティング)	企業において商品開発に必要なマーケティングにより、ターゲット抽出し。マーケティング活動ができる。	予習として、親や友達からどんな商品希望しているか聞いてくる。(30分) 授業で習ったポイントを復習しノートに纏める。(30分)
第6回	商品開発における企業との協業を学ぶ③(PDCA)	企業において商品開発に必要なマーケティングにより、PDCAを回すことができる。	予習として、商品をどこで見かけたか調べてくる。(30分) 授業で習ったポイントを復習しノートに纏める。(30分)
第7回	商品開発における企業との協業を学ぶ④(宣伝)	企業において商品開発に必要なSNS等活用した宣伝手法を学び、他社製品と比較することができる。	予習として、どんなツールで情報を集めるかをまとめてくる。(30分) 授業で習ったポイントを復習しノートに纏める。(30分)
第8回	商品開発における企業との協業を学ぶ⑤(ロングセラー)	商品開発において必要なロングセラー商品への宣伝&取り組み手法を学び、他者に伝えることができる。	予習として、どんな人から買いたいか調べてくる。(30分) 授業で習ったポイントを復習しノートに纏める。(30分)
第9回	まとめ(前8回の振り返り)と中間テスト、商品開発とマーケティング手法の発表	商品開発のイロハを学ぶ。商品開発の一連の流れがわかり、自分の意見を述べることができる。	予習として、8回の振り返り試験に向けて自主学習する。またどんな商品が欲しくてどんな場所で買うかまとめる(60分以上)
第10回	社会や行政の成り立ちについて学ぶ①(行政サービス／ゲストスピーカー東京都)	行政の仕組みや日常生活に関わるさまざまな行政サービスについて基礎が分かり、今までの自分と比較することができる。	予習として、官公庁(特にゲスト東京都)の政策について調べてくる。(30分)。授業でならったポイントを復習しノートに纏める(30分)
第11回	社会や行政の成り立ちについて学ぶ②(行政と企業の関係)	今後働く上で意識しておくべきことや企業が果たす役割について分かり、他者に伝えることができる。	予習として、官公庁の普及促進について調べてくる。(30分)。授業でならったポイントを復習しノートに纏める(30分)
第12回	政策の作り方を学ぶ①(政策のつくりかた／ゲストスピーカー経済産業省)	実際の事例をもとに政策の作り方をシミュレーションし、企業や大学、自治体や一般市民を巻き込むことができる。	予習として、親や友達から官公庁(特にゲスト経産省)の政策について聞いてくる。(30分) 授業で習ったポイントを復習しノートに纏める。(30分)
第13回	政策の作り方を学ぶ②(周知&行動)	行政であれば一般市民、美容であれば顧客や潜在顧客の行動を促すことができる。	予習として、親や友達から官公庁の普及促進について聞いてくる。(30分) 授業で習ったポイントを復習しノートに纏める。(30分)
第14回	行政と社会実装について学ぶ(10～13回)までのまとめ	行政の一連の流れから、課題を抽出し、提案を考える。行政の課題が分かり、発表資料を作成することができる。	予習として、どのような社会が好ましいか調べてくる(30分) 授業で習ったポイントを復習しノートに纏める。(30分)
第15回	まとめと1～14回の振り返り、政策と普及促進についての発表	行政のイロハを学ぶ。行政サービスの一連の流れがわかり、自分の意見をのべることができる。	前5回を振り返り試験に向けて自主学習する。(60分以上)